



買い物客に静岡牧之原茶をPRする西原市長（中央）

大阪で静岡牧之原茶をPR

■「静岡牧之原茶」大阪新茶キャンペーン

静岡牧之原茶の消費拡大を目指して、市は5月19、20日の両日、大阪市の近鉄百貨店阿倍野本店と上本町店で新茶キャンペーンを行いました。本市出身で「静岡まきのはら大使」の眞井保さんが創業した茶卸販売店「榛原」の店頭で、もえぎ色の法被をまとった市長や茶娘姿の職員らが、新茶一煎パックの配布や呈茶サービスなどを実施。試飲した買い物客は「抹茶が入っているみたいにきれいな色」「まろやかな味がしておいしい」と、次々に新茶を買っていました。

物流会社が緊急避難場所に

■災害時における緊急避難場所としての使用に関する協定

大規模災害対策として、市は5月15日、豊通物流株式会社（名古屋市中村区）と「災害時における緊急避難場所としての使用に関する協定」を締結しました。市が同協定を民間企業と結ぶのは、今回が初めてとなります。

落居にある同社の牧之原営業所は国道150号バイパス沿いに位置し、海拔77メートル。大規模な災害が発生し、地域住民や通勤者などが緊急に避難しなければならない場合に、駐車場を一時避難場所、事務所を避難所として活用します。



調印後、握手を交わす豊通物流の中原常務（左）と西原市長

チャーフィンが海岸でお出迎え

■公衆トイレの外壁塗装ボランティア

静波海岸を利用するサーファーでつくるボランティア組織が5月26日、同海岸の公衆トイレの外壁に、ペンキで静岡牧之原茶のマスコット「チャーフィン」を描きました。

同組織が3日から5日にかけてトイレの清掃や塗装作業を実施した際に描いておいた下絵に、1日かかりで色付けを行いました。代表の名波恵之さん（須々木区）は「サーファーとして今できることをやっていきたい。皆さんにトイレをきれいに使ってもらえたら嬉しい」と話してくれました。



名波さんたちの作業風景と完成したトイレの外壁



原油くみ上げの様子

原油くみ上げを実演

■相良油田の里公園新茶まつり

菅ヶ谷の相良油田の里公園で5月20日、「新茶まつり」が開かれました。同公園を管理し、太平洋岸唯一の石油坑である相良油田の歴史を今に伝える地元有志のグループ「菅山クラブ」の皆さんが企画したもの。新茶接待や手もみ茶実演、茶葉の天ぷら試食などが行われ、大勢の来園者が新茶の味と香りを楽しみました。

また、県指定文化財である機械掘り井戸からくみ出した原油を直接注入して、バイク走行実験や年代別の発動機の運転も行われました。



熱心に朗読に聞き入る川崎小の児童たち

物語の世界へようこそ

■榛原図書館開館記念イベント

榛原文化センター会館棟の耐震補強工事に伴い、同館内にあった榛原図書館が5月15日、榛原庁舎2階市民ラウンジに臨時図書館として開設されました。

5月17日には開館記念イベントとして絵本の読み聞かせが行われ、職業体験中の榛原中学校2年の男子生徒3人が川崎小学校の児童約30人を前に、感情を込めて絵本を朗読しました。

臨時図書館は広さ約100平方メートル。幼児や児童向けの絵本や紙芝居、小説や雑誌など約1万冊を移したほか、子どもたちが座って本を読めるスペースも設けました。開館期間は平成25年2月中旬までを予定しています。

ここから始まる夢への第一歩

■静岡県中部看護専門学校戴帽式

焼津市の県中部看護専門学校で5月11日、戴帽式が行われました。

基礎学習を終え、これから本格的な看護実習に臨む2年生41人に一人ずつ、純白のナースキャップが授与されました。

出席した杉山若菜さん（坂部区）と井上歩美さん（静波区）は「初心を忘れず、今日からまた新たな気持ちで講義や実習に取り組みたい」「思いやりの心を持った看護師になって、地域のために働きたい」と決意を語ってくれました。



新たな決意を語ってくれた杉山さん（左）と井上さん（右）



名前と家紋が入った凧と一緒に記念撮影に収まる家族

健やかな成長を願い大空へ

■さがら凧あげ大会

初節句の子どもを祝う「さがら凧あげ大会」（市観光協会主催）が5月5日、相良サンビーチで開かれました。

江戸時代から続く伝統行事に、市内外から24組の家族が参加。初節句の神事が執り行われた後、子どもの名前と家紋が描かれた縦1.3メートル、横1.17メートルの凧が、地元の相良凧の会の協力により次々と揚がりました。

青空に浮かぶ凧を眺めながら、参加者は子どもの健やかな成長を願いました。



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp